

総合型地域スポーツクラブの育成課題に関する研究
～ポルベニルカシハラススポーツクラブの参与観察を通じて～
A study on issues of community sports club
～Participant observation of porvenir kashihara sports club～

1K05B702-5

岡田 行平

指導教官 主査 リー・トンプソン先生

副査 間野 義之先生

【目的】

我が国では、2000 年にスポーツ振興のマスタープランである、スポーツ振興基本計画が策定され、全国の各市区町村において少なくとも1 つの総合型地域スポーツクラブ育成する目標を立て、現在、都道府県で育成状況に差は見られるものの総合型クラブ数は伸びている。設立段階、継続段階どちらにおいても総合型クラブの理解のためや、継続意識を高めるために効果を明示することは有益だと考えられる。従って、本研究の目的は様々な事例研究を収集し、現在提唱されている総合型クラブのメリット、効果との比較を行いながら、総合型クラブが地域に対して及ぼす効果の実態を探索的に明らかにすることを目的とした。

【方法】

調査方法は、2011 年 5 月から行った自身の参与観察によるものである。スタッフとして運営に携わる中で見えてくるクラブの問題点を見つけ、自分なりの見解を示す。また他のスタッフに対してはインタビューを行いそれぞれが思うところのクラブの現状や課題、今後の展望を述べてもらい考察する。また会員に対しては質問紙によるアンケートを行い、ポルベニルカシハラススポーツクラブに対するいくつかの項目に関する満足度を調査、分析を行う。

【結果】

活動面においては各カテゴリの会員へのアンケートにより 3 つの満足度を調査した。その結果、指導者やスタッフに対しては現状おおむね満足はしているが、人材の質・量ともに高いものが求められており、現存のスタッフのスキルの向上や新たな指導者の招致、育成も検討しなければならない。クラブの設備に関しては老朽化、劣悪化がひどく不満の声も多い。ただ自前のグラウンドを所有しているため練習場所の確保が容易で現状に満足しているとの声もある。また活動日数においても会員の予定やスタッフの確保などからうまく調整して行わなければならない。

また運営面においては総合型地域スポーツクラブとして幅広く活動するためにこれまで会員としてなかなか獲得できなかった層へ向けた企画・事業をさらに行っていかなければならない。活動面ともリンクすることだが新規事業を拡大するにあたってスタッフも会員つまり人材・資金の確保が急務である。

【考察・まとめ】

活動としての課題点、運営としての課題点をそれぞれ挙げたが、「総合型地域スポーツクラブとはこういうものだ」という固定化されたものはないので、ポルベニルカシハラススポーツクラブがこうならなければならないということではない。私がここで言いたいのは、こうすることでさらにクラブの活動の幅が広がり、より魅力的なものとなるのではないかということである。いつでもだれでも生涯スポーツを楽しめる素晴らしい環境、地域づくりを行うことを目標に今以上に選手、保護者他の関係団体の声を聞き、運営していくことでクラブ内の信頼も深まり、さらには満足度も高まることになるだろう。

今後の展望として、クラブに直面する課題や問題に取り組み、改善していくことがさらにポルベニルカシハラススポーツクラブを大きくしていくだろう。また、なおいっそう地域に働きかけ地域貢献で協力と理解を得て、事業を広げるために奈良県や橿原市との連携を深めていく必要があるだろう。各世代が体を動かし、健康維持に努め、コミュニケーションを取ることができるクラブ、また、競技性の高い種目でも実績を残し、そういった選手を育成していくための環境、施設を持ったクラブ、さらに地域活動にも参加し、クラブに関わるすべての人が成長できるようなクラブづくりを私の手で、みんなの手で作っていききたい。